



before



after



■ 2004年9月25日（土）、9月26日（日） ■

←左

(25) 大野家所有建物：1921(大正10)年、元町31-27

【塗り替えの配色】外壁下見板：淡いピンク色、窓枠・柱・軒蛇腹・持ち送り：白色、小屋根・下屋庇：赤茶色の3色

右→

(26) 今井家住宅：1921(大正10)年、元町14-17

【塗り替えの配色】外壁下見板・窓枠：白色、破風の壁：薄緑色、下屋庇：濃緑色の3色

●塗り替え対象物件の選定理由：これまで、伝統的建造物と景観形成指定建築物については、その修理にあたり行政から補助金が交付されるなどの公的な支援があったので、民間ボランティアの我々が支援すべきはそういう公的支援のない建物に限定するという役割分担を考えていた。しかし、市民にとっても観光客にとっても日頃よく目にする大三坂沿いに立地し、伝統的建造物に指定されてから16年間一度も修理されることなく、老朽化が進む大野家所有建物をそのまま何もしないでいるのはしびないと考え、今回思い切って塗り替え対象とした。もう一軒の今井家住宅は、大野家所有建物の比較的近くにあり、隣接するペンションはちまん板と対をなすようなデザインの住宅で、すでに数年前からペンキ塗り替えによる大きな町並み改善効果が期待できる有力候補としてあげられていたが、今回建物所有者と親交のある函館からトラスト前運営委員長の山内一男氏の全面的な協力が得られ、念願かなって塗り替え対象とすることができた。

●塗り替える色の方針：①現状の色彩、時層色調調査の結果、②西部地区の町並み景観との調和、建物の周囲の環境との調和、③外壁と窓枠・柱等を異なる色で塗り分け建物にメリハリをつけること、を考慮した。大野家所有建物は、大三坂の町並みのシンボリックな建物であった旧函館文化服装学院（1998年に滅失）の記憶を継承することをめざして、現状に近い色でもある外壁下見板を淡いピンク色、窓枠・柱・軒蛇腹・持ち送りを白色、小屋根・下屋庇を赤茶色の3色とした。今井家住宅は、外壁等は隣のペンションはちまん板の色彩である白色、屋根下妻壁は屋根の濃緑色に調和する淡い緑色、下屋庇は屋根の濃い緑色の3色とした。

●NHKの取材・番組の放送：今回の活動当初からNHK函館局の中井さんの取材を受け10月4日【月】の番組「おはよう北海道 “ハイカラな町並みを守る”」(AM7:35～7:40頃)として放送された。

【参加者】ペンキ塗りボランティア代表・藤田木崎子、小形知裕、飯岡 匡、以上、北海道大学大学院工学研究科建築設計学専攻・修士課程1年）、水上晋夫、吉村有人（以上、同・修士課程2年）、瀬田真由（同・修士課程1年）、新道尚司、殿井 真、中村悠之、花本達郎（以上、同・4年）、森下 尚（同・浪平）、吉原武志（同 都市空間計画学専攻・修士課程1年）、梅津 幸、西村純矢（同・修士課程2年）、安藤大地（同 空間情報学専攻・修士課程2年）、牧野史史（同 建築史学専攻・修士課程2年）、金津梨乃、青柳明也、水島 悠、渡辺 聡（以上北海道教育大学函館校・1年）、山上和広（同・3年）、栗田大（同・4年）、鶴山地輔、齋藤 誠、津田洋輔、林田 花、笠野ちえみ、志茂祐美、伊藤悠美（以上、北海道教育大学函館校・学生）、松本道樹（同・助教）、佐藤 真、佐藤由希子、原田崇（以上、函館工業高校3年）、中村幸子（小倉工務店）、森下幸一（朝日ジャーナル）、太田誠一、山本真也（以上元町倶楽部）、西山健一（札幌市役所）、岡本浩一（神ホルス）、原谷泰英（札幌市役所）、伊藤瑞典（北海道教育大学旭川校・4年）、西井智浩（東京大学大学院工学研究科・修士課程1年）、櫻田和子（富山大学経済学専攻）、吉村伸也（新潟大学工学部・教授）、以上44名

【協力者】大野（所有建物のペンキ塗りの承諾、飲み物、設計、ソフトクリーム・アイスクリームの差し入れ）、今井（所有建物のペンキ塗りの承諾）、興小倉工務店（飲み物の手配）、日本ペイント販売北海道支社・水沢盛夫（ペンキ塗料の手配）、函館工業高校建築科教師・吉村軍士夫（函館工業高校生のボランティア手配）、北海道教育大学函館校助教・松本道樹（北海道教育大学函館校学生のボランティア手配）、元町倶楽部・山本真也（北海道教育大学函館校学生のボランティア手配）、色の相談・決定）、函館からトラスト事務局・深澤暁+内田高子（足跡の交渉、ハケ等ペンキ用具の保管）、元町倶楽部・太田誠一（大野さんとの交渉、色の相談・決定）、建築企画山内事務所・山内一男（今井さんとの交渉、色の相談・決定）、NHK・中井（飲み物の差し入れ）

※以上敬称略



before



after

